

弔 辞

春まだ浅い弥生の半ば、突然、先生は永遠に帰らぬ旅路に就かれました。この思いもかけぬ訃報に接しました時の驚きと悲しみは、あまりにも大きく、とうてい言葉で言い表わすことができません。

同志社大学で学びました私は、学生時代に先生の豊かな学識と、温かい人柄に接することができまして、この上なく幸せでありました。先生は講義を通じて、人間性の真実に目を向けるよう、静かに、情熱を込めてお教えくださいました。先生の含蓄に富んだお言葉を一つひとつ噛み締めながら考えてみますと、先生がいかに深い思考と、優れた洞察力をお持ちであるかを知り、心から敬服したものであります。

多感な青春時代にあって、ややもすれば極端に走りがちな若い学生たちを戒め、中庸の徳を説いてくださいました。これは先生が長年ご研鑽を積まれました英文学を初め、広く宗教・哲学・芸術に対する深いご理解から体得された先生の崇高な人生観の一端ではなかったでしょうか。

先生は古美術に深い造詣をお持ちでありました。小さな壺を手にししながら、あるいは欠けた壺を指さしながら、その一つひとつの美しさ、おもしろさを教えてくださったことがあります。いかなる壺にも、それなりの良さがあるように、いかなる人にも、欠点もあれば、美点もある。人の欠点を暴いて咎めるのではなく、人の良い点を見出すように努めねばならないと教えてくださった先生のお言葉は、生涯忘れることができません。先生の温かいお人柄は、いかなる人であっても、その人格を尊重し、その優れた点を正しく評価しようと努められた先生の貴い信念の表われではなかったでしょうか。

先生は学生をこよなく愛されました。学生の声に辛抱強く、静かに耳を傾け、親身になって相談にのり、ご指導くださいました。この尊いご温

情は決して忘れることができません。しかし、教室で熱心に講義される先生のお姿も、あのにこやかに笑いになる顔も、静かに誠意を込めてお話になるお声にも、もう二度と接することができないと思いますと、先生の数々の思い出も、込み上げる悲しさがいっぱい、言葉になりません。

同志社の教育に生涯をお捧げになった先生は、今ごろ天国で新島先生に「太田君、よくやった」といって、肩を叩いてもらっておられることでしょう。どうか安らかにお眠りください。先生のお残しくございました尊いご教訓を守り、努力する覚悟でございます。先生のお蔭になった種が、同志社で、また社会の各方面で、立派に花咲く日を楽しみに見守っててください。

まことに拙く、十分に意を尽くせぬ言葉ではありますが、これをもちまして弔辞とさせていただきます。

昭和56年3月16日

葬儀委員長 畠 中 康 男